



報道機関・行政機関広報担当 各位
NEWS RELEASE

2019年5月31日配信【No.6】 <<配信枚数 3枚>>

間伐材の活用と創造を通して木や自然を学ぶ「川上村木匠塾」 「日本建築学会教育賞（教育貢献）」を受賞

5月30日、大阪工業大学（学長：西村泰志）を含む、近畿圏内の建築や住環境系学科を有する大学で組織する川上村木匠塾が、日本建築学会から「日本建築学会教育賞（教育貢献）」を受賞しました。

川上村木匠塾は1998年にスタートし、吉野林業発祥の地である奈良県川上村を拠点に、間伐材を使った制作物など実際に木に触れる創作体験を通じて、日本の林業や山村での生活、木という素材が持つ可能性について学ぶ教育プログラムを展開しています。現在の参加校は本学のほか、大阪芸術大学、近畿大学、滋賀県立大学、奈良女子大学の5大学で、21年の間にこの塾を修了した学生は、1400人を超えました。

同賞は建築教育の発展に貢献した著しく優れた教育プログラムや教材を対象としています。同塾の教育プログラムは、林業の村で間伐材の活用と創造を主軸とするもので、学官連携による共創を中心に民と産も加わって相乗的な効果を生み出しています。本年度のサマースクールなどは下記のとおり実施予定です。

つきましては、概要をお知らせしますので、取材で取り上げていただきたくよろしくお祈いします。

【実施概要】

1. 林業体験・場所 : 2019年6月1日（土）～6月2日（日）川上村有林
制作物発表・場所 : 2019年7月14日（日）村役場
2. サマースクール・場所 : 2019年8月16日（金）～8月22日（木）
川上木匠館、あきつの小野公園、白川渡オートキャンプ場
3. 担当教員 : 大阪工業大学 工学部建築学科 寺地洋之 教授（川上村木匠塾塾長）



2019年 日本建築学会通常総会
大阪文化芸術学協会・教育賞・教育賞・教育賞・教育賞
授賞者

寺地洋之教授（前列右から2人目）と古谷誠章日本建築学会会長（同3人目）、阪口和久川上村副村長（同4人目）



サマースクールでのセルフビルドの様子

■内容に関するお問い合わせ先

大阪工業大学 工学部事務室（担当：西川）TEL：06-6954-4419 大阪市旭区大宮 5-16-1

■本件発信部署・取材のお申し込み先

学校法人常翔学園 広報室（担当：田中、上田）TEL：06-6167-6208、携帯：090-3038-9887

間伐材の活用と創造

— ものづくりを通じ、人、地域、自然を活かすプロフェッショナルを育むPBL —

Utilization and creation of thinnings - Through making things, PBL fostering professionals that make use of people, areas, nature. -

川上村木匠塾・奈良県川上村

川上村と川上村木匠塾

川上村木匠塾は、吉野林業の発祥の地・奈良県川上村において、21年にわたり継続している木造建築を学ぶ実践教育である。川上村は奈良県南東部に位置する吉野林業の中心地であり、村の95%を森林が占めている。古くは室町時代末期に川上村に造林が行われた記録が残る。1ha当たり8,000本〜10,000本の超密植により、年輪幅が狭く完熟高直、無節、色目の良さなどから吉野杉として高く評価されてきた。戦後の木材ブーム時には隆勢を極めたが、近年は吉野杉の価格低迷や、後継者不足から産路に立たされている。木匠塾は1991年岐阜県高根村からはじまった教育プログラムであり、現在は全国に7つの木匠塾がそれぞれの特徴をもって活動している。川上村木匠塾の特徴は、森林、木材、木造について、保護・育成、材の生産と創造、維持・保守にいたる全過程を身をもって体験するプロジェクトベースラーニングを実施していることであり、自然や地域、人間への深い理解を備えた「つくり手」を育成することを目的としている。近年は、関西圏に位置する5大学が連携し、インターネットを形成しながら、村と共同で運営している。2018年には20周年を迎え、記念フォーラムを開催した。1998年開塾以来21年間の参加学生数は累計で1,418名が参加している。



2019年度現在の参加校の所在
 関係機関：大阪工業大学、大阪経済大学、近畿大学、富山県立大学、奈良女子大学
 関係機関：大阪府立大学、大阪工業大学附属高等学校、大阪府立第一高等学校、近畿大学、奈良女子大学
 村内の制作物分布図
 片丸地区からはじまった制作物は、21年間で10ヶ所に展開され、伐採から15km圏内に、これまでに440のプロジェクトが完成している。

川上村木匠塾の活動の特徴と組織

1. 学生たちが、木造建築における川上である間伐・出材から設計・施工、メンテナンスという川下までの流れを総合的、体験的に学ぶ教育プログラムである。
2. 基本材料として未製材の間伐材を主に利用することにより、材の本質を理解し、自然やものづくりの困難さ、深さを体感していくこと。これにより、将来にわたる、ゆたかな国土と高質なものづくりの文化や技術を持続させる基盤を強化させる。
3. プログラムを通じ、自治体や林業関係者、村民、他大学の学生といった多様な人々とのコミュニケーション行為が欠かせないことにより、学生個々に他者との合意形成や協働の重要性について気づきを与え、人との関係構築の力を涵養する。
4. 当塾と村が強い信頼関係を育み、20年に渡って活動を継続しながらプログラムを深化させてきた。学生は、過疎化や後継者問題など、日本の山林が直面する課題に触れるとともに、地域の祭りへの参加など村民と多面的に交流を行っており、地域に活力を生むアクティビティの一つとなりえている。



教育活動としての周知の状況



現在、村内に、廃校となった中学校校舎（木造）を再活用した活動拠点「川上村木匠塾」（2006年から運用開始）を有しているほか、本教育活動が起点となり、この21年の間には、建築学にとどまらず、情報科学あるいは機械工学分野など多様な研究者、および学生によるPRコンテンツの開発や情報発信、環境負荷低減を期待できる車両「ソーラーコンパートEV」の開発など多数の新しいプロジェクトが村内に誕生し、分野横断的な取り組み（PBL）へと発展している。建築、教育、林業関係機関に配布される報告集「Magbook」や地域行事などの紹介ページによって当該活動の周知を行っている。また新聞などでも記事として取り上げられている。2018年には20周年記念行事を行い、その際に誕生した塾生のOBOGによる「川上村木匠会」によって地域振興への寄与を強めていく予定である。

川上村木匠塾の1年



川上村の「今」を知る
 本匠塾のプログラムは村内見学からはじまります。村内見学について、本匠塾の村の本質に触れ、今おかれている状況を知ることができ、また過去の制作物を手に見ることで、経年変化や加工技術の進歩を知り、これからの制作物にフィードバックしていきます。

村内見学



1/2/村の方からレクチャーを受ける (2017)
 3/巨大杉の大きさに驚くばかり (2015)
 4/時には楽しい道のりも (2005)

過去の制作物の見学



1/ 自らの体を使って作品を学ぶ。(2015)
 2/ 木材の耐久性やメンテナンスの必要性を確認。(2012)



木材はどのようにして生まれるのか
 林業体験では、地元の林業家の方々の指導のもと間伐を行います。去年年度より、材を間伐し、二年間の乾燥させた材を利用して、切り出さず、皮むき、材葉、歴代の材のストックリストの管理まで、全工程を学生が主体で行います。

林業体験



1/ 手練と足練を使って木登り体験 (2001)
 2/ プロの指導のもと慎重に切り出す (1999)
 3/ 巨大な一枚皮が割れることも (2010)
 4/ 一本一本ストックリストに記録 (2009)



アイデアを形に。全体エススキ
 制作物の発注地が決定し、大工チームが選定され、制作物の設計を進めています。合計20名の教員と10名の学生を結集し、現場に即した施工と機能性、安全性が図られます。また、同時に道のメンテナンスをいいます。制作物の設計や、メンテナンスの良さを設計にフィードバックしていきます。

教員レビュー



1/ 質疑応答のあるレビュー会場の様子 (2012)
 2/ 全員が笑顔が一点に集まる (2007)
 3/ 構造系教員による構造のチェック (2016)

メンテナンス



1/ 1-割解体することで腐蝕による構造。(2012)
 2/ 老朽化が進み、思い切って切替することも。(2016)



自らの提案を実現するためには

関係者へのプレゼンテーション



1/ 学生の提案に考え込む区長 (2003)
2/ 安全性に対しては徹底的に議論 (2008)

プレワークショップ



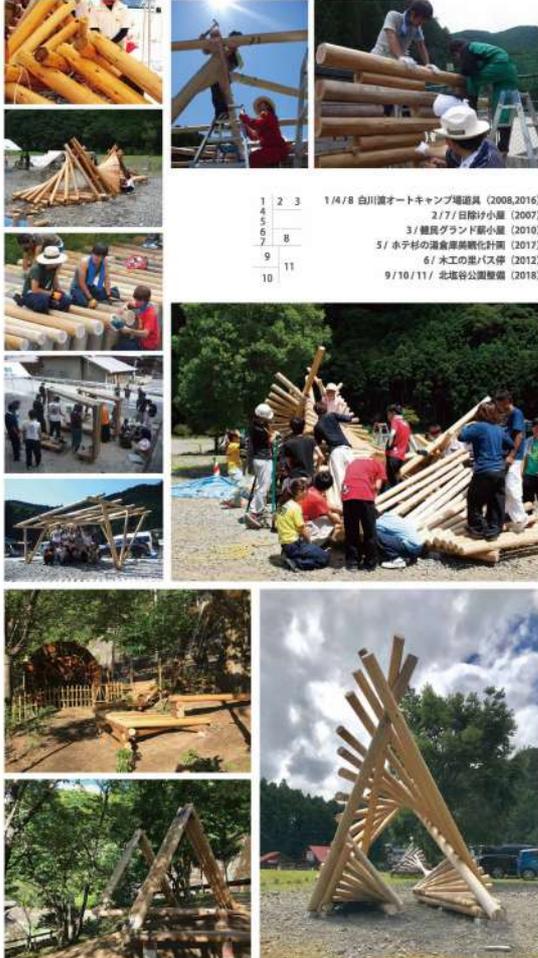
1/2/ ガストの多賀木区助委員長 (施工系教員) による講義と実演 (2013,2016)
3/ 施工手順の確認のためユニットのモックアップ完成 (2016)

地域イベントへの参加



1/ 井光地区で昼祭り (1998)
2/ 村最大会のみせ祭りに参加 (2016)
3/ オリジナルな組み立て家具を持ち込んで
村民との交流を保証 (2016)

サマースクール



1/4/8 白川源オートキャンプ場道具 (2008,2016)
2/7/ 日除け小屋 (2007)
3/ 健児グランド小屋 (2010)
5/ 赤子杉の消費産廃削減化計画 (2012)
6/ 木工の壁バス停 (2012)
9/10/11/ 北谷谷公園整備 (2018)



村民と交流。祭りなどへ積極的に参加

一週間のサマースクール

準備期間を経て約一週間のサマースクールを開催。郷土を離れた川上村で自然を満喫しながら、設計活動を中心に施工体験。夜には、星見会を催したり、虫の音を聞いて野生としての感性を回復していきます。他大学の学生たちとの交流も一気に進みます。



活動を記録に留め、次代へ

年度ごとに記録集がまとめられる。ブックデザインもたびたび、1つの作品として見られる。また、林業・建築関係者にも配布され、集の活動を後に周知する役割を担う。

記録集 / Moqbook の発行・配布



1/ Moqbook2017
2/ 21年間の Moqbook、サイズと仕様も進化

年内に発行・配布を終え、当年度の活動は完了する。1~3月はリピーター塾生を中心に当年度の反省をふまへ次年度の準備を進める。

川上村木匠塾20周年記念フォーラム

川上村木匠塾20周年記念展示



1/2
3/4
1/2/ ホワイエ吹き抜け部での絵巻物展示
3/ 本年度の作品展示
4/ 思い出等項にはメッセージカードが貼られた

日時: 2017年9月9日 (水) ~ 9月25日 (月)
2018年2月3日 (土) ~ 2月11日 (日)
会場: 川上村総合センター・やまぶきホール・ホワイエ

川上村木匠塾20周年記念シンポジウム



台風で一度延期されましたが、川上村を会場に外部の専門家を交えてシンポジウムを行いました。会場にはOBOG 中村人の方、これまでの関係者や建築、林業・行政の方々が登場し、盛況に終えることが出来ました。
日時: 2018年2月10日 (土) 会場: 川上村総合センター・やまぶきホール
13:00 開場 講演者「2017年度の活動内容を中心に近況の川上村木匠塾について」
13:40 シンポジウム1 「林業の村で大学生が暮らす可能性」
14:30 シンポジウム2 「林業・木材に関連するビジネスの育み方」

1/2/ シンポジウム風景
3/ 村長歓迎挨拶
4/ 学生による基調報告
5/ フォーラム参加者記念写真
6/ OBOGによる子供向けワークショップ

川上村木匠塾20周年記念大交流会



日時: 2018年2月19日 (土) フォーラム後には大交流会が行われ、懐かしい顔と美味しい料理をいただきながらに話が進みました。

村長を囲んで話そう会



日時: 2018年2月11日 (日) 大交流会翌日には村長を囲み、村の発展についてOBOGとぞくぞくばらに語り合いました。

川上村木匠塾20周年記念誌



20周年を振り返り次の年輪を刻むために刊行された記念誌。歴代作品データや関係者へのインタビュー、20周年記念シンポジウムの内容が記録され、関係機関及び関係者に配布された。そして、次代の塾生のメルマガとして活用される。